

① 入域観光客数概況について

1. 入域観光客数概況（25年4月～7月実績、8月～10月見通し）

	8月	9月	10月
※航空会社ヒアリングならびに沖縄県内発着便の提供座席数より推測			
国内空路			
海外空路			
※クルーズ客船の寄港予定より推測			
国内海路			
海外海路			

〈OCVB観光天気予報〉

対前年
105%以上水準対前年
100%以上-105%未満対前年
95%以上-100%未満対前年
90%以上-95%未満対前年
90%未満水準

			4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(実績)	8月(予測)	9月(予測)	上期 計	10月(予測)	8月-10月
2025年度	空路	国内	617,900	588,300	595,800	701,900	770,000	650,000	3,923,900	700,000	2,120,000
		海外	168,400	166,700	170,100	177,800	175,000	166,000	1,024,000	179,000	520,000
		合計	786,300	755,000	765,900	879,700	945,000	816,000	4,947,900	879,000	2,640,000
	海路	国内	3,000	12,700	3,600	2,300	2,000	5,600	29,200	6,400	14,000
		海外	93,400	74,900	69,400	65,800	68,000	73,000	444,500	82,000	223,000
		合計	96,400	87,600	73,000	68,100	70,000	78,600	473,700	88,400	237,000
	空路海路合計		882,700	842,600	838,900	947,800	1,015,000	894,600	5,421,600	967,400	2,877,000
	国内合計		620,900	601,000	599,400	704,200	772,000	655,600	3,953,100	706,400	2,134,000
	海外合計		261,800	241,600	239,500	243,600	243,000	239,000	1,468,500	261,000	743,000

■ 概況

国内：

- ・ファミリー層などの個人旅行の需要が引き続き好調。8月の連休では、全国の中でも沖縄方面への需要が活発で前年度を上回る人数が訪れた。
- ・9月、10月も連休を中心にイベントが開催され、需要が好調に推移している。
- ・9月には、横浜港発の大型クルーズ船「DIAMOND PRINCESS」や日本向けラグジュアリークルーズ船「MISTUI OCEAN FUJI」の入港が予定されている。MITSUI OCEAN FUJIは那覇発着のクルーズも設定されており、フライ&クルーズを含めた国内クルーズの選択肢が広がっている。

海外：

- ・空路は台北、韓国仁川の需要が好調に推移している。10月には新規路線として韓国清州＝那覇が就航し、新たな需要拡大が期待されている。
- ・海路は、台湾発の海外クルーズを中心に好調に推移している。石垣港や平良港へは、香港や廈門発のクルーズ船の入港も多く予定されている。

過年度実績については、沖縄県の[入域観光客概況](#)をご確認ください。

①入域観光客数概況について

1. 入域観光客数概況（25年4月～7月実績、8月～10月見通し）

8月

空路

（国内）77万人（24年8月対比100.5%）と見込む。

（海外）17.5万人（24年8月対比 130.3%）となる見通し。

台北＝下地島路線

（新）スターラックス航空：8月22日～10月25日期間運航 週2便（火金）

海路

（国内）2,000人（24年8月対比74.1%）となる見通し。

国内クルーズは寄港予定なし。

（海外）6.8万人（24年8月対比67.5%）となる見通し。

台湾（基隆）や香港、中国（上海・厦門）などから24回寄港予定。うち9回は石垣港または平良港のみ寄港。

9月

空路

（国内）65万人（24年9月対比 102.7%）と見込む。

（海外）16.6万人（24年9月対比 132.4%）となる見通し。

海路

（国内）5,600人（24年9月対比 350%）の見通し。

国内クルーズは4回寄港予定。（那覇・横浜）

（海外）7.3万人（24年9月対比103.0%）となる見通し。

台湾（基隆）や香港、中国（上海・厦門）から、30回寄港予定。うち18回は石垣港または平良港のみ寄港。

10月

空路

（国内）70万人（24年10月対比101.7%）と見込む。

（海外）17.9万人（24年10月対比144.6%）となる見通し。

清州（韓国）＝那覇路線

（新）エアロK航空：10月1日～新規就航（デیلیー）

海路

（国内）6,400人（24年10月対比 108.5%）となる見通し。

国内クルーズは7回寄港予定。（那覇・東京・横浜）

（海外）8.2万人（24年10月対比119.5%）となる見通し。

台湾（基隆）や香港、中国（上海・厦門・深圳）から、26回寄港予定。うち5回は石垣港または平良港のみ寄港。

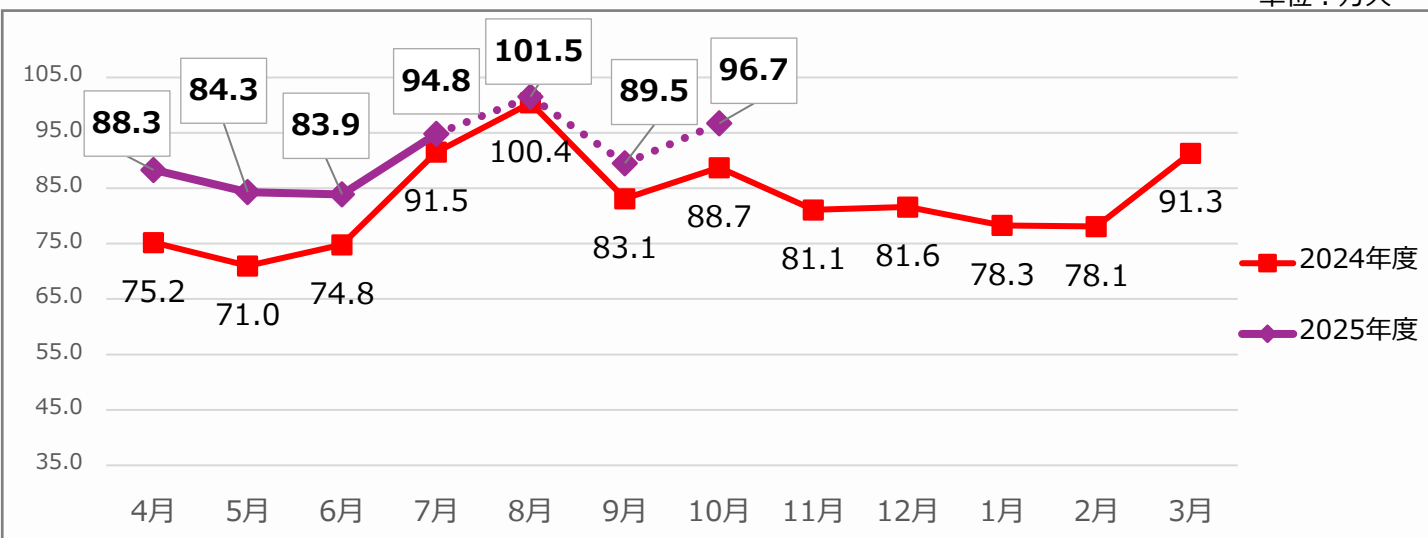
（空路）国内：県外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定のうち、観光客の混在率をかけたもの
海外：海外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定
（海路）国内：乗船客数想定のうち日本国籍のもの
海外：乗船客数想定のうち日本以外の国籍のもの
※国内クルーズ⇒発地が国内 海外クルーズ⇒発地が海外

①入域観光客数概況について

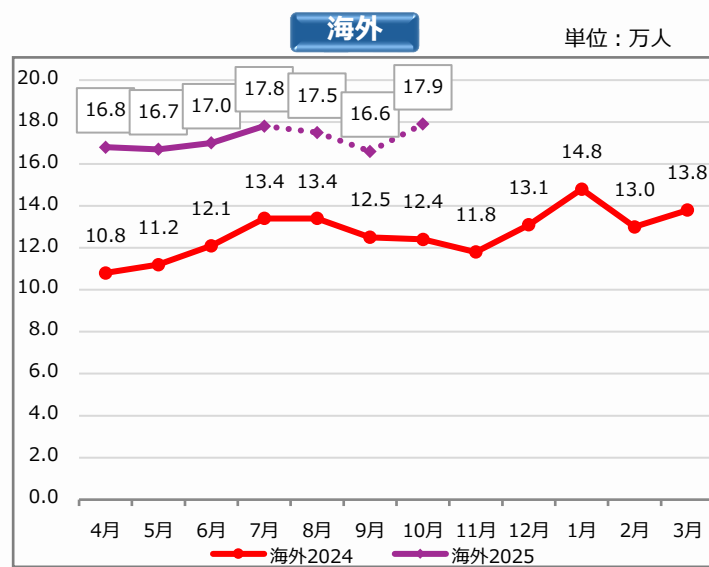
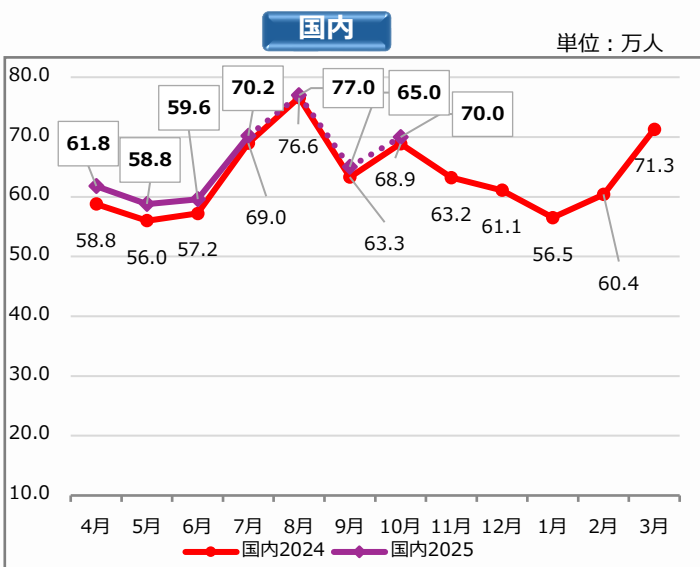
1. 入域観光客数概況グラフ

入域観光客(合計)

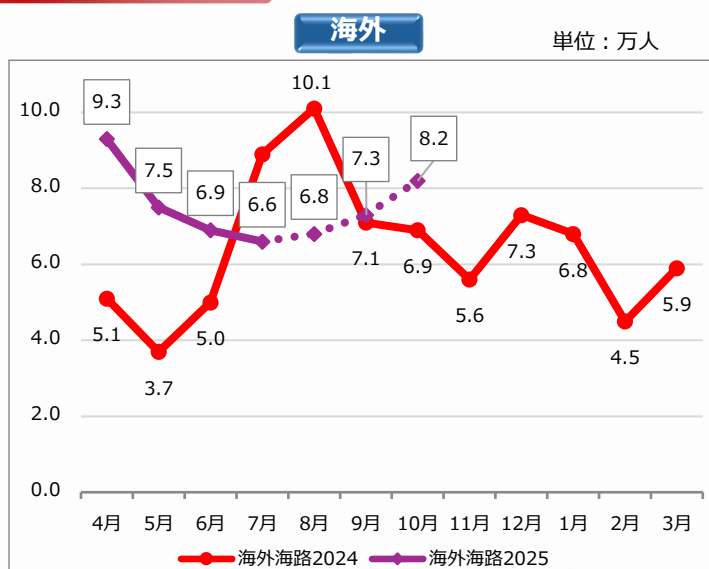
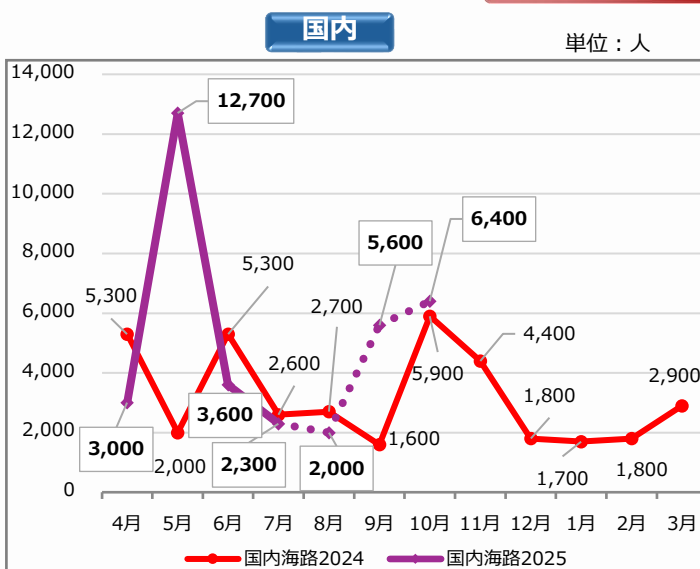
単位: 万人



入域観光客(空路)



入域観光客(海路)

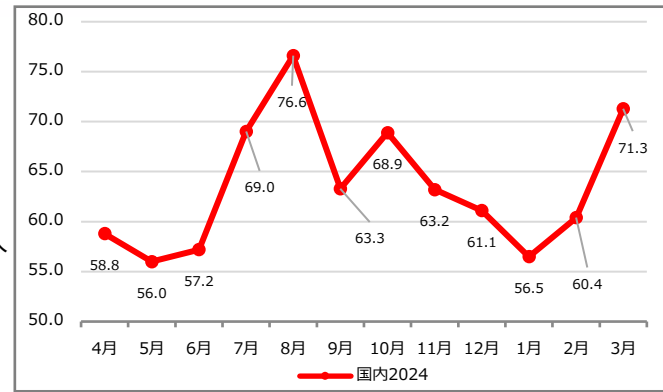


ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸への出展について

国内観光客の入域動向について

昨年度沖縄への入域観光客数は995万人を記録、うち国内入域観光客数は約766万人と全体の76%を占め、過去最高の人数となりました。

入域月の内訳(空路)をみると、ピークは8月のおよそ77万人、その一方で、5月、1月は56万人と、ピーク期との差が約20万人となっています。



年間を通じた入域客の平準化を目指す

「夏」「海」のイメージが強いことや、夏休みという旅行ニーズの高い時期も相まった結果となっていますが、観光産業における年間を通じた収益の安定化や雇用の安定・労働生産性の向上を図るためにも、年間を通じた入域客数の平準化が必要とされています。それにより、最終的には雇用の質の向上から、県民給与の増加にもつながる可能性があるほか、供給面では企業の財務やインフラの利用効率の改善、需要面ではピーク期における観光地の混雑・渋滞によるサービス品質や観光客満足度の向上にも寄与する可能性があります。

冬ならではの沖縄の魅力、たとえばホエールウォッチングや、快適な気候のもと自然を楽しむトレッキング、透明度が高海でのダイビング、空気が澄んだ冬ならではの星空など、まだまだそれらの魅力を発信する必要があると考えています。

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン」で冬の沖縄の魅力をPR

ツーリズムEXPOジャパンは、世界中の観光業界を牽引する総合的な観光イベントです。今回は11回目を迎えたツーリズムEXPOジャパンが初めて「愛知・中部北陸」で開催されます。県民所得（2021年内閣府調べ）でも全国でベスト3に入る愛知県で開催されることで、北陸復興も視野にいた観光業界の更なる発展、一般消費者の旅行意欲を高める意図をもった関連団体の利益などに幅広く貢献することが期待され、今回は「旅の未来を想像する」総合イベントとして、開催されます。

愛知県での開催となる今回、「冬の沖縄旅」をテーマとして、冬の沖縄の魅力を発信することに加え、県内の市町村や観光協会、観光関連団体等16団体と連携し、「沖縄ブースエリア」として装飾や施策を展開、一体感を演出し、平準化の促進および沖縄県への旅行未経験者市場の開拓と新たなリピーターの創出を図ります。

名 称：ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸

開催日時：2025年9月25日（木）～28日（日）

（業界・プレス日：9月25日（木）・26日（金）、一般日：9月27日（土）・28日（日））

開催場所：Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）

来場者数：10万人(主催者目標数)

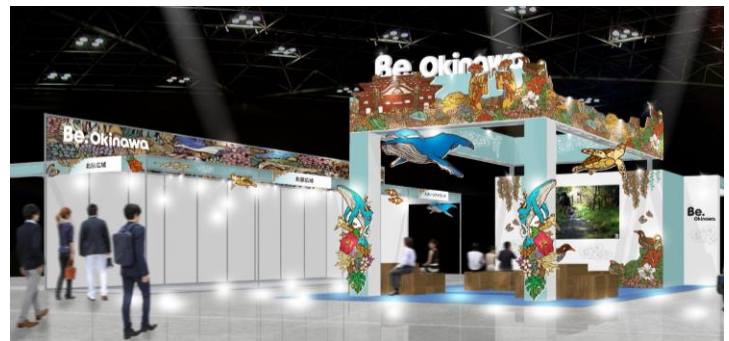
公式WEBサイト：<https://www.t-expo.jp/>

※沖縄ブースイメージ

アーティストpokke104さんの作品による「華やかで彩り溢れる様々な沖縄」をモチーフとしたデザインをブース全体に装飾します。

pokke104：

2003年より活動。イラストレーションを中心に、壁画、企業やアーティストのコラボレーションや地域との“つながり”をテーマにしたワークショップの企画などアートワークを多数手掛ける。



【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部国内プロモーション課 担当：森田、赤嶺、中山

TEL：098-859-6125

Mail：kokunai_rosen@ocvb.or.jp

沖縄MICEセミナー＆商談会 in 大阪・東京の開催について

概要

沖縄県およびOCVBは、沖縄MICEの最新情報等を提供し本県MICEの誘致拡大を図るため、大阪、東京においてMICE企画営業を行う旅行社およびPCO等を対象とした「沖縄MICEセミナー＆商談会 in 大阪・東京」を開催いたします。春のMICEシーズンを終え、秋のトップシーズンを迎える前のこの時期は、出展事業者および県外エージェント（来場者）にとって、落ち着いて商談や情報収集に臨むことができる貴重なタイミングです。本催事では、セミナーや沖縄県内のMICE関連事業者との商談会を通じて、沖縄MICEの魅力や最新コンテンツなど、旬の情報をお届けいたします。

名称：沖縄MICEセミナー＆商談会 in 大阪・東京
詳細：<https://mice.okinawastory.jp/information/post-46858/>

【大阪】

開催日時：令和7年9月9日（火）13:00～17:30 ※12:30開場
開催場所：梅田センタービル クリスタルホール
参加人数：出展事業者－45社 来場者－80名（目標）

【東京】

開催日時：令和7年9月11日（木）13:00～17:30 ※12:30開場
開催場所：ベルサール秋葉原 2Fホール
参加人数：出展事業者－45社 来場者－100名（目標）

タイムスケジュール（予定） ※大阪・東京共通

【13:00-13:50】 沖縄MICEセミナー

- ・沖縄MICEの概要（沖縄MICEの魅力、新規コンテンツ、サポートメニューの紹介等）
- ・出展事業者によるプレゼンテーション（MICE事例紹介等）

【出展事業者】プレゼンテーション登壇者 ※順不同	
大阪	東京
【会議施設】沖縄サントリーアリーナ	【会議施設・ホテル】株式会社南西楽園リゾート
【レストラン】松風苑（金城哲夫資料館）	【観光施設】DMMかりゆし水族館
【会議施設・ホテル】ヒルトン沖縄宮古島リゾート	【企画・運営】株式会社DMC沖縄
【体験プログラム】株式会社よく笑う	【体験プログラム】一般社団法人ウチナーグチスクール
【観光施設】株式会社ジャパンエンターテイメント	【観光施設】株式会社ジャパンエンターテイメント

【14:00-16:30】 商談会

- ・事前マッチング商談（15分+休憩5分）×7枠
- ・沖縄県内事業者45社が出展（ホテル、MICE関連施設、MICEコンテンツ、サービス等）

【16:30-17:30】 ネットワーキング交流会

- ・出展事業者と来場者が、名刺交換や商談など自由な交流が可能
- ・出展事業者からのプレゼントが当たる抽選会

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：折原、比嘉
TEL：098-859-6130 Mail：conven@ocvb.or.jp

シンガポール直行便再就航を見据えた沖縄観光プロモーション

沖縄-シンガポール路線の最新動向

シンガポールから沖縄への直行便は、これまでジェットスター・アジアが運航していましたが、2025年7月末をもって運休となりました。しかし、2025年12月15日より新たに **Scoot（スクート航空）** がシンガポール-沖縄間の直行便を就航することが発表されました。※scootプレスリリース参照

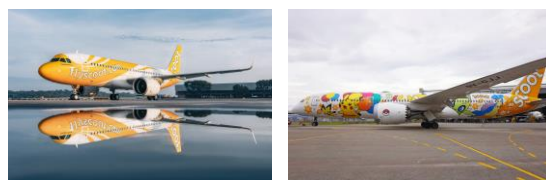
シンガポールは、1人あたりGDPが世界トップクラスで可処分所得の高い国となっています。また、ASEAN市場の中で最も平均泊数が長く、旅行中の支出額が高い市場となっていることから、沖縄旅行の重要なターゲット市場に位置づけられています。

（参考：観光庁 訪日外国人の消費動向2024年 年次報告書 ）

今回、沖縄路線を就航するScootの親会社であるシンガポール航空は、Skytraxや各種ランキングで連続受賞するなど、世界最高の航空会社との評価されており、シンガポール人にとって最も信頼される航空会社としてシンガポール人から支持されています。

また、シンガポール航空とScootは共同運航やマイレージプログラムなどで連携しており、安心して乗れるLCCとしてシンガポール人から認知されています。

今回、シンガポールで実施したアンケート調査で示された「直行便ニーズの高さ」に応える格好となり、今後の需要喚起が期待されます。



シンガポール市場概況

- ・2024年度（3月～4月）は21,400人が来沖。
- ・2025年4月は2,800名の訪沖者数。4月としては過去最高。

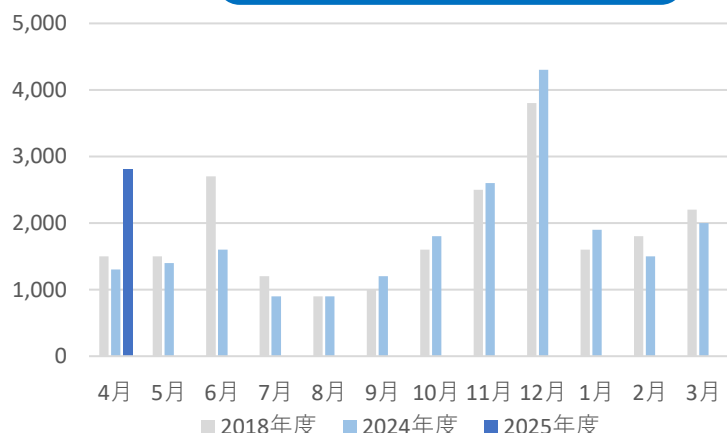


訪日概況：6月の訪日客数は、68,600 人（前年同月比 16.4%増）であった。継続する日本人気や直行便数の増加に加え、6 月末まで続いたスクールホリデーの影響等もあり、訪日外客数は 6 月として過去最高を記録した。

引用元：JNTO報道発表「地域別訪日市場の概況」（2025年6月）

シンガポール

沖縄県入域観光客数比較



出典：沖縄県「入域観光客統計」

訪沖概況：2025年4月は対前年同月比1,500人増、4月のシンガポールからの入域者数としては過去最高となる**2,800人**の訪沖者数となった。

観光客数回復率

187%

*観光客数回復率は2018年4月と2025年4月の比較
出典：沖縄県「入域観光客統計」

航空路線回復率

150%

就航数がピークの2019年7月と2025年6月の週間運航便数から算出

シンガポール直行便再就航を見据えた沖縄観光プロモーション

シンガポール「NATAS Holidays 2025」にて沖縄観光プロモーションを展開
アンケート調査から直行便ニーズと人気観光コンテンツが明らかに

沖縄県より受託している沖縄観光グローバル事業の一環で、2025年8月にシンガポールで開催された旅行博「NATAS Holidays 2025」へ出展し、沖縄観光の魅力を広く発信しました。ブース来場者を対象に実施したアンケート調査（有効回答数：663件）では、沖縄旅行に対する関心やニーズに加え、特に人気の観光コンテンツが浮き彫りになりました。



名 称：NATAS Holidays 2025
主 催：NATAS（The National Association of Travel Agents Singapore）
開催日程：2025年8月15日（金）～17日（日）
開催場所：Singapore EXPO
総来場者数：106,497名
公式WEBサイト：<https://www.natastravelfair.travel/>

アンケート調査結果の概要（NATAS Holidays 2025）

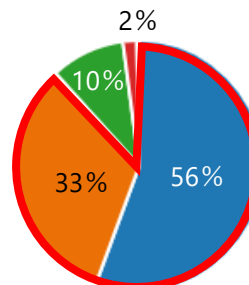
【直行便の重要性】

「旅行先選びにおける直行便の有無」を尋ねた結果、約9割が「重要」と回答。
シンガポールー沖縄間の直行便運航が旅行者誘致に極めて有効であることが示されました。

How important is the availability of direct flights as your travel destination?

（旅行先を選ぶ際に、直行便の有無はどのくらい重要ですか？）

● Very important	（とても重要）	369
● Important	（重要）	216
● Neutral	（どちらでもない）	64
● Not important	（あまり重要ではない）	12
● Not important at all	（重要ではない）	2



89%が「重要」と回答

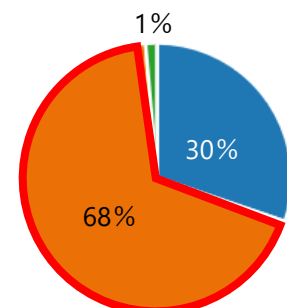
【予約方法の傾向】

約7割が「自分でウェブサイトから予約」と回答し、オンラインによる自己手配志向が強いことがわかりました。

How do you make reservations when traveling?(Choose one)

（旅行の予約はどのようにしていますか？）

● Travel agency	（旅行会社）	200
● Self -booking via website	（旅行予約サイトを通じて自分で予約）	454
● By telephone or other means	（電話などその他の方法で予約）	9



68%が「オンラインによる自己手配」と回答

【訪日/訪沖旅行の目的】

■ 訪日旅行と訪沖旅行の目的に関する共通点と相違点

共通点：いずれも「文化体験」、「食・グルメ」が主な旅行の動機となっている

相違点：日本全体：「文化体験」に次いで「食」、「リラックス」、「ショッピング」が多い

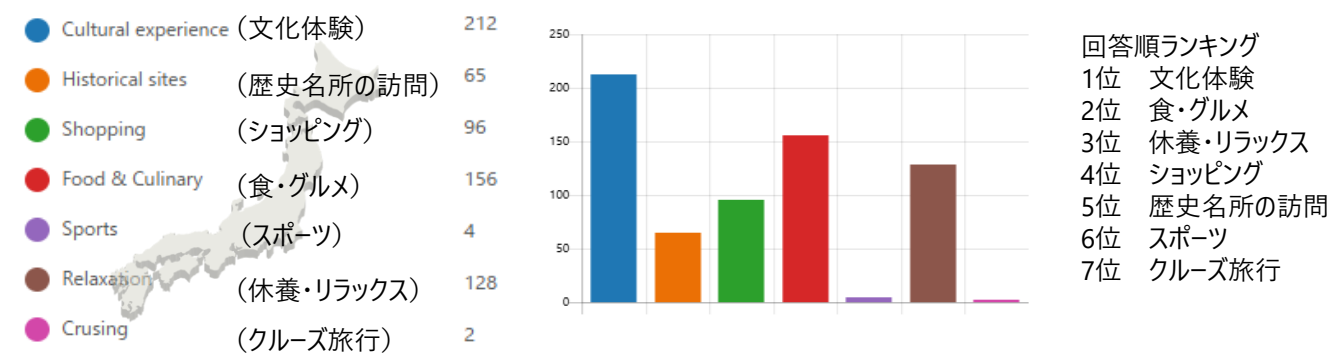
沖縄：「文化」、「食」に加え「リゾート要素（ビーチ・マリン・リラクゼーション）」など旅行動機が多岐に渡る

沖縄は「文化・食・歴史」という日本全体と共通の動機に加え、「ビーチ・リラクゼーション」などのリゾート的要素が独自の魅力として認識されていることがわかりました。

What is the main purpose of visiting Japan ?(Choose one)

日本全体

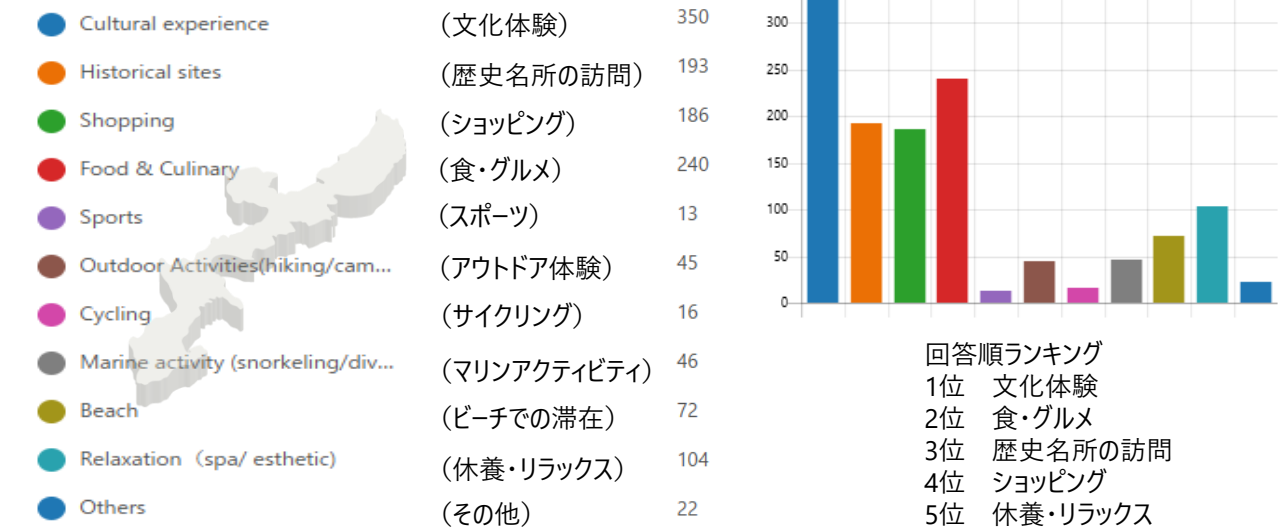
(日本を訪れる主な目的は何ですか？)



What is the main purpose of visiting Okinawa ?(Multiple Answers up to 3)

沖縄

(沖縄を訪れる主な目的は何ですか？)



今後の取り組み

OCVBでは、今回の調査結果をもとに、沖縄県、那覇空港ビルディング(株)、そして、Scoot航空やチャンギ国際空港と連携し、広告やキャンペーン等を通じて「沖縄ならではの文化・食・自然の体験」を訴求します。また、様々な市場からの訪沖誘客を図るべく、ASEAN諸国からのトランジット需要の取り込みを今後も強化し、持続的な観光交流の拡大を推進します。

NATAS2025会場における沖縄ブース内アンケート調査概要

■ 期間：2025年8月15日（金）～18日（日）3日間

■ 調査対象：NATAS2025 沖縄ブース来場者

■ 調査人数：663名

■ 調査方法：誘導バナーによるWEBアンケート



アンケート結果の詳細はこちら

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
海外・MICE事業部 海外プロモーション課
担当：黒島、奥平、照屋
TEL：098-859-6127
Mail：global_pr@ocvb.or.jp

九州・沖縄サミットをフックとしたMICE機運醸成について

事業目的

2000年九州・沖縄サミット開催は、道路や観光施設等のインフラの整備促進、沖縄の美しい自然や文化等の世界への発信につながり、国際的なリゾート地に発展する契機となりました。

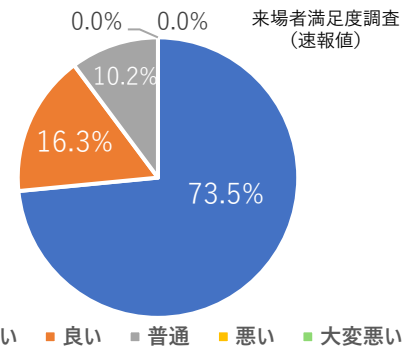
サミット後にもたらされた観光をはじめとする産業の発展と経済効果を再確認することで、さらなる沖縄の発展へとつなげるレガシーとして、次世代へとつなげることを目的とします。

2000年九州・沖縄サミット首脳会合開催以降の観光入域客数と国際会議開催件数の推移



2000年九州・沖縄サミット首脳会合開催25周年記念シンポジウム（企画展併催）

サミット当時の関係者、有識者および沖縄県の次世代を担う若い世代が一堂に会し、サミットの歴史的意義や観光・経済への波及効果について振り返るとともに、そのレガシーを次世代へ繋げていくことを目的としてシンポジウムを開催しました。



7月22日(火) 万国津梁館 来場者数：53団体 106人

沖縄コンベンションセンター夏休みこども自由研究ブース出展

「サミットってなんだろう？」をテーマに子供たちにサミットを伝えるブースを出展。パネルや当時のかりゆしウェアを展示するとともに、サミット参加国の国旗をモチーフとした輪投げ大会、サミットの効果で最もうれしいと思うものを選ぶアンケートを実施し、1,673人が参加しました。



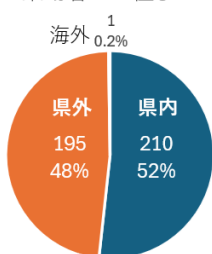
	① 高速道路が できた！	② かりゆしウェアが 広まった！	③ 世界のひと 仲良くなったよ！	④ 沖縄のものが 人気になった！	⑤ 国際会議がもっと 開かれるようになった！	合計(人)
アンケート 結果	313	230	480	523	127	1,673

8月9日(土)、10日(日)
沖縄コンベンションセンター
来場者数：1,673人

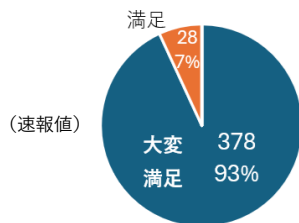
2000年九州・沖縄サミット首脳会合開催25周年記念企画展

サミット当時に使用された記念品やグッズの企画展を万国津梁館にて実施しました。

来場者のお住まい



来館者満足度



(速報値)

■ 県内 ■ 県外 ■ 海外

■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ 不満 ■ 大変不満

8月11日(月)から22日(金)
万国津梁館サミットホール
来場者数：406人



【お問い合わせ先】（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：酒井
TEL：098-859-6130 Mail：mice@ocvb.or.jp

参考※国際会議の定義について

国際会議を誘致することの意義

国際会議の誘致は、開催地域に経済的効果だけでなく、多面的な価値をもたらします。外国人参加者は国内参加者に比べて消費額が高い傾向にあり、その消費活動によって地域経済が活性化し、高付加価値の創出が期待されます。また、世界各国の専門家との交流を通じて、地域の国際的な認知度が高まり、学術・産業分野での連携強化や人材育成にもつながります。さらに、地域住民が会議運営や交流に関わることで、多文化理解や国際対応力の向上も期待されます。

ICCA基準とJNTO基準の目的・役割について

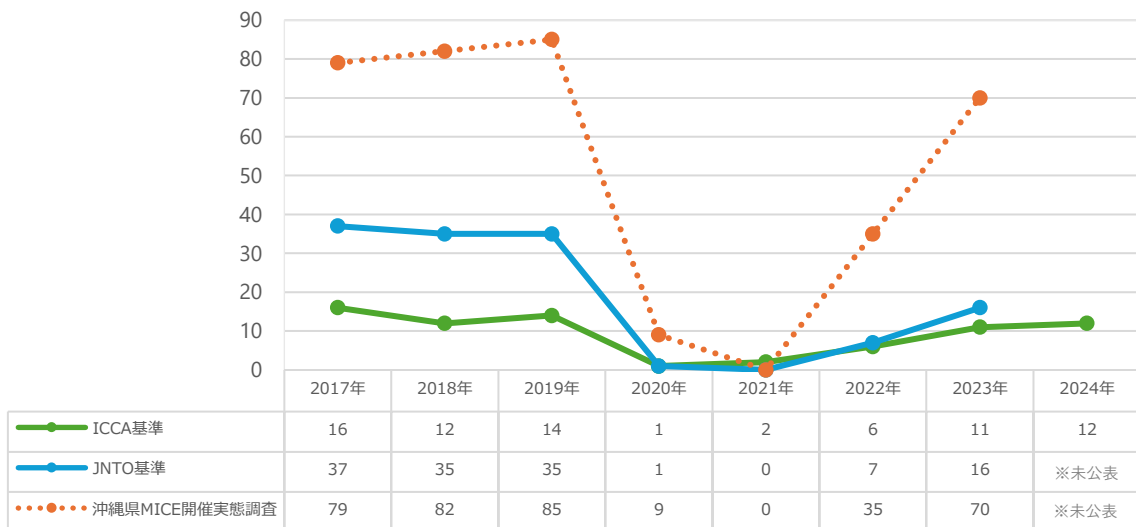
国際会議の統計を収集・分析する際には、さまざまな基準が存在し、目的に応じて使い分けを行う必要があります。代表的なものとして、ICCA基準とJNTO基準があげられます。ICCA基準は、国家間の国際会議の開催件数や規模を把握し、国ごとのMICE誘致力や競争力を比較・分析するのに適しています。一方でJNTO基準は、日本国内で開催される国際会議に焦点を当て、国内都市・地域ごとの誘致実績や競争力を図るのに適しているといえます。

	ICCA基準	JNTO基準
主催者に関する基準	3ヵ国以上をローテーションする国際機関	「国際機関・国際団体」（各国支部を含む）又は、「国家機関・国内団体」（民間企業以外）
参加者総数	50名以上	50名以上
参加国	-	日本を含む3ヵ国以上
開催期間	定期的に開催	1日以上

沖縄県独自の調査「沖縄県MICE開催実態調査」

沖縄県MICE開催実態調査は、「沖縄MICE振興戦略」に基づく具体的施策の効果を検証し、今後の改善に向けた基礎資料とするため、沖縄県のMICE開催実態を把握することを目的に毎年実施しています。

沖縄県内で開催された国際会議件数 ※調査別



※JNTO国際会議統計および沖縄県MICE開催実態調査における2024年統計は令和7年8月22日現在未公表
【資料・出典】ICCA基準：観光庁作成資料、JNTO基準：日本観光政府観光局（JNTO）2023年国際会議統計、[沖縄県MICE開催実態調査](#)：「海外からの参加があった開催件数」

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：折原、酒井
TEL：098-859-6130 Mail：mice@ocvb.or.jp